

特別修学支援室と連携して行う 障害のある学生へのサービス ～北海道大学附属図書館の事例～



北海道大学

このスライドは、カラーユニバーサルデザインに配慮して作成しています。

2018年11月30日

北海道大学附属図書館

利用支援課 栗田とも子

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題



特別修学支援室 →アクセシビリティ支援室 (2018.8.1より)

本発表は名称変更前のできごとが多いので「特別修学支援室」とさせていただきます。

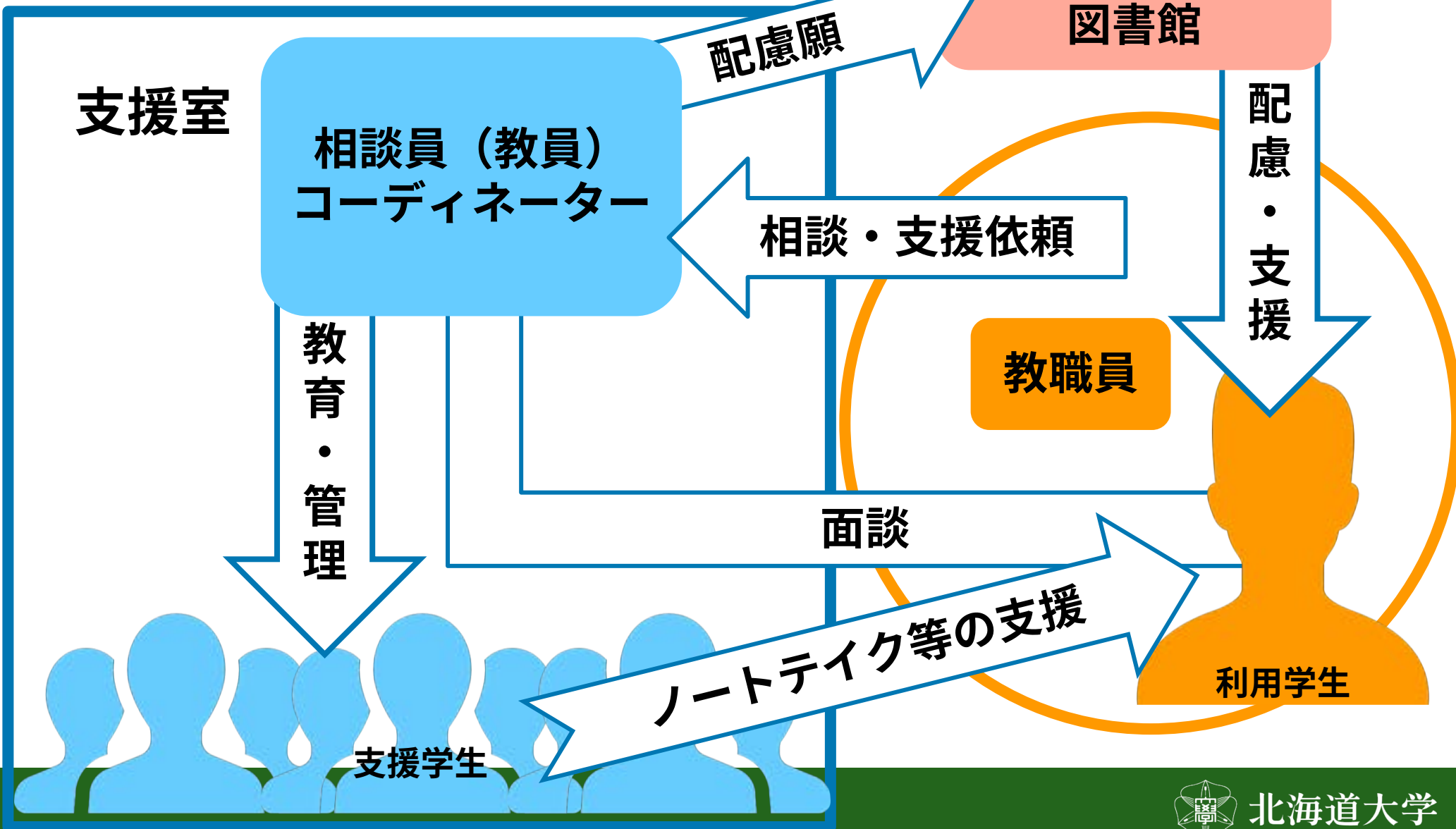
アクセシビリティ支援室概要

アクセシビリティ支援室（以下、支援室）は、障害のある学生が学修及び研究を行う上で抱える困難に対して、相談に応じ、支援をコーディネートしています。サポートを担う学部、各研究科等と連携し、支援学生とも協働し、支援実施体制の充実を図っています。

障がいのある学生とは、肢体不自由、精神障害、視覚障害、聴覚障害、発達障害、内部障害、性的マイノリティなどのため、学修及び研究上に困難があり、支援を希望する学生のことです。一人ひとりと丁寧な対話を重ねて、障がいのある学生が主体的に学ぶことができるように、学びの環境（人とももの）を整えています。相談には、支援室の相談員である本学の教員が応じています。

北海道大学の支援室の特色は、学修支援を通して、人と人をつなぎ、支え合いながら、サポートを受ける利用学生とサポートをする支援学生がお互い学び成長し合える場づくりを目指しているところにあります。もう一つの特色は、教育補助機器に関する情報を集約し、学びの環境がより豊かに整っていくように推進しています。

アクセシビリティ支援室



本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

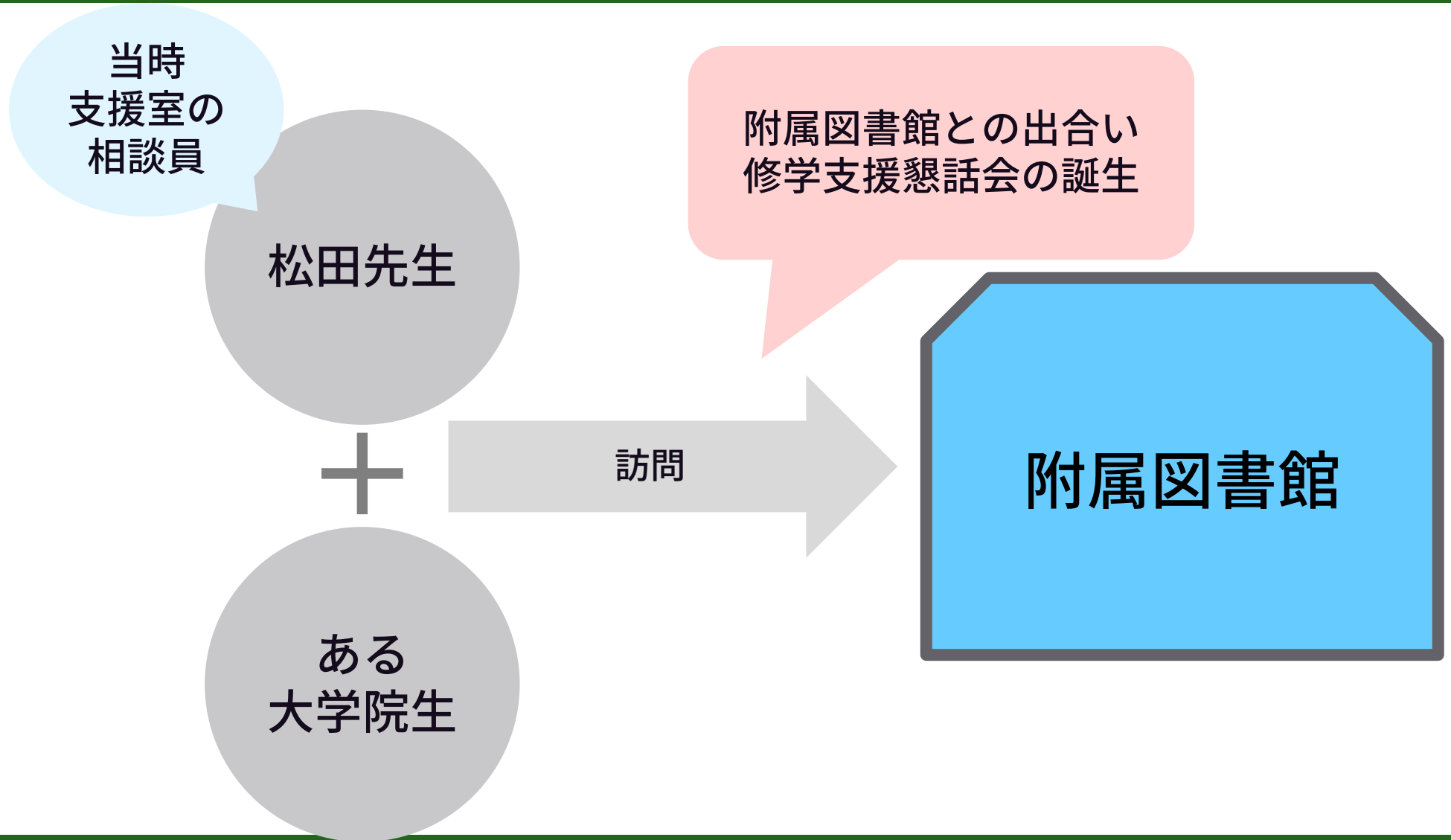
特別修学支援室との連携のはじまり

松田康子 「高等教育における障害学生支援と合理的配慮の検討；ひとりの障害学生への聴きとり調査を事例に」

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/5103>

「電子媒体であれば，私も容易に図書館の書籍にアクセスすることができ，たくさんの本を読むことができたかもしれない」

特別修学支援室との連携のはじまり



図書館の資料を
全て電子化
してほしい

ある大学院生の要望

電子ジャーナル

電子書籍

オープンアクセス文献

利用の案内
検索補助



ある大学院生の要望

電子ジャーナル

電 籍

オ 状

文系（しかも倫理学）の
大学院生にとっては、そ
れでは足りない。
印刷媒体しかない資料も
必要。

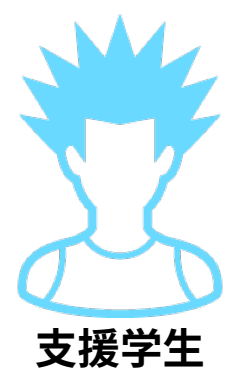
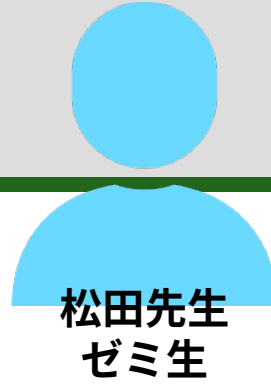
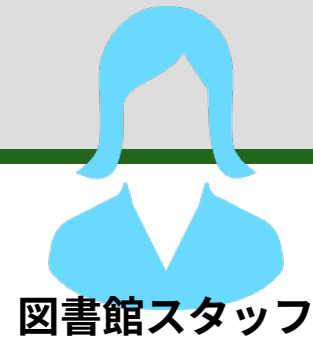
特別修学支援室との連携と 電子化サービス実施試行錯誤の はじまり



連携の始まり

修学支援懇話会

修学支援懇話会



修学支援懇話会

北大の
バリア
調査

研修や
発表の
報告・
情報共有

最新の
電子機器
ツールの
紹介

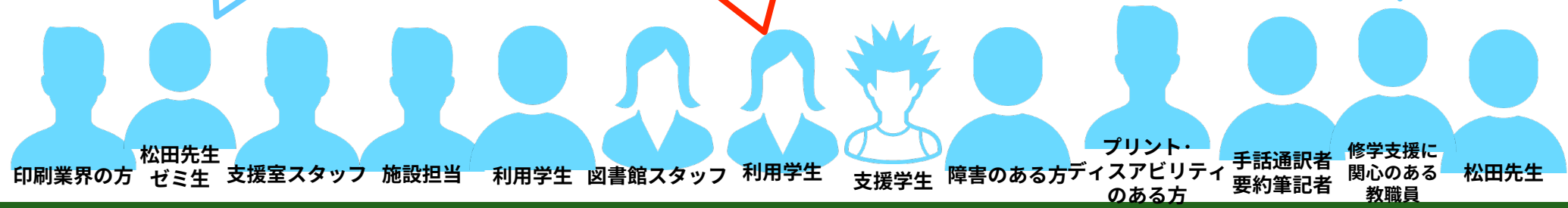
聴覚障害
学生への
情報保障

障害者
雇用

プリント・
ディスアビ
リティのあ
る利用者へ
の情報保障

ノート
テイク

車椅子
移動
補助



印刷業界の方 松田先生 ゼミ生 支援室スタッフ 施設担当 利用学生 図書館スタッフ 利用学生 支援学生 障害のある方 プリント・ディスアビリティのある方 手話通訳者 要約筆記者 修学支援に関心のある教職員 松田先生

修学支援懇話会

北大の
バリア
調査

研修や
発表の
報告・
情報共有

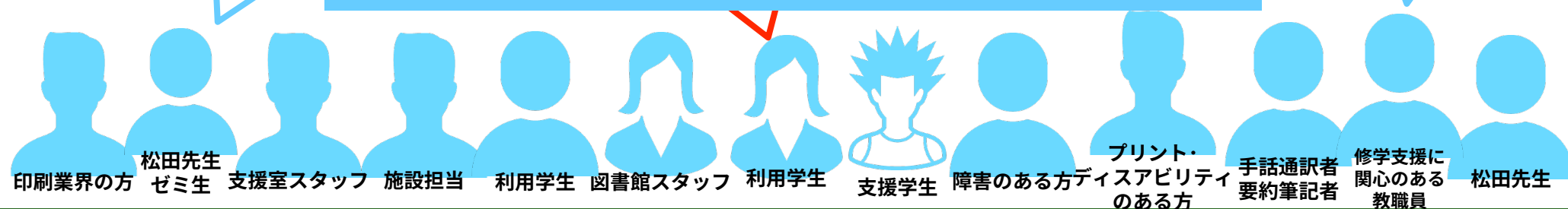
最新の
電子機器
ツールの
紹介

聴覚障害
学生への
情報保障

障害
雇用

車椅子
移動
補助

松田先生は修学支援室を離れたが
現在も定期的に関催
研修として図書館スタッフも参加

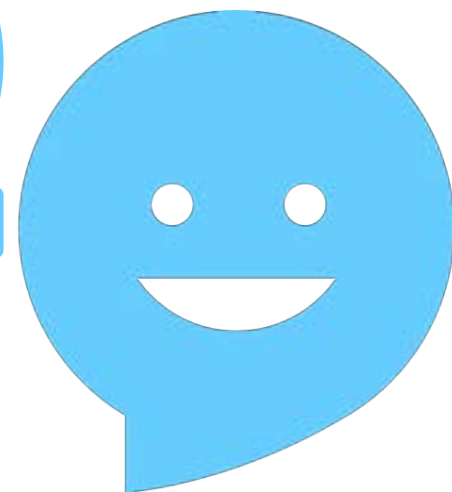


現在

支援室と図書館の連絡会



ゴメン
ナサイ



説明は割愛

以下，割愛部分は

「特別修学支援室と連携して行う，障害のある学生へのサービス：北海道大学附属図書館の事例」

に詳しく記載しておりますのでそちらをご参照ください。



支援室と図書館の連絡会

2016年度 特別修学支援ワーキンググループ発足
→WGが支援室との窓口になった

年に3回ほど連絡会を開催

2017年度末 特別修学支援ワーキンググループ解散
→修学支援は図書館全体が取り組む業務となった

現在：図書館⇔支援室で年に3回ほど連絡会を開催



支援室と図書館の連絡会

2016年度 特別修学支援ワーキンググループ発足

→WGが支援室との窓口になる

年々増加している連絡会を

支援室



図書館

情報交換

案件相談

電子化の
進捗報告・
確認

特別修学支援ワーキンググループ

図書館全体が取り組む業務とな

修学支援
関連
情報交換

現在、図書館⇔支援室で年に3回ほど連絡会を開催

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

一番の成果

協働の取り組み①

資料電子化サービス

電子化のための前提①プリント・ディスアビリティ

印刷体の資料をそのままの形式では
読むことができない

＝

プリント・ディスアビリティ

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 肢体障害
- 精神障害
- 知的障害
- 内部障害
- 発達障害
- 学習障害
- いわゆる「寝たきり」の状態など



図書館には障害者のための複製が認められている

「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」

<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/20100218.html>



電子化のための前提③著作権法第三十七条三項

(視覚障害者等のための複製等)

第三十七条 公表された著作物は、点字により複製することができる。

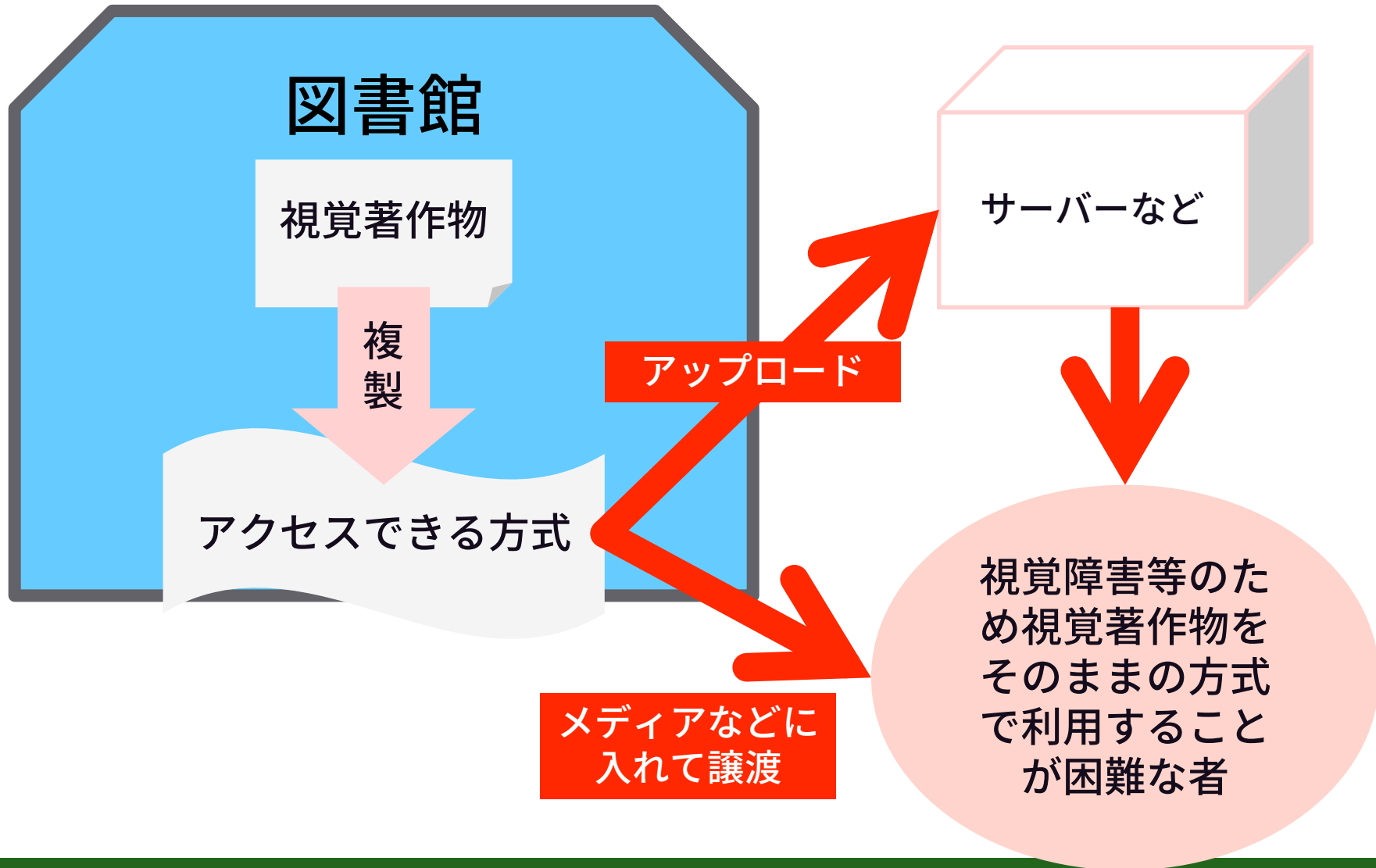
2 公表された著作物については、電子計算機を用いて点字を処理する方式により、記録媒体に記録し、又は公衆送信（放送又は有線放送を除き、自動公衆送信の場合にあつては送信可能化を含む。）を行うことができる。

3 視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者（以下この項及び第百二条第四項において「視覚障害者等」という。）の福祉に関する事業を行う者で政令で定めるものは、公表された著作物であつて、視覚によりその表現が認識される方式（視覚及び他の知覚により認識される方式を含む。）により公衆に提供され、又は提示されているもの（当該著作物以外の著作物で、当該著作物において複製されているものその他当該著作物と一体として公衆に提供され、又は提示されているものを含む。以下この項及び同条第四項において「視覚著作物」という。）について、専ら視覚障害者等で当該方式によつては当該視覚著作物を利用することが困難な者の用に供するために必要と認められる限度において、当該視覚著作物に係る文字を音声にすることその他当該視覚障害者等が利用するために必要な方式により、複製し、又は自動公衆送信（送信可能化を含む。）を行うことができる。ただし、当該視覚著作物について、著作権者又はその許諾を得た者若しくは第七十九条の出版権の設定を受けた者により、当該方式による公衆への提供又は提示が行われている場合は、この限りでない。

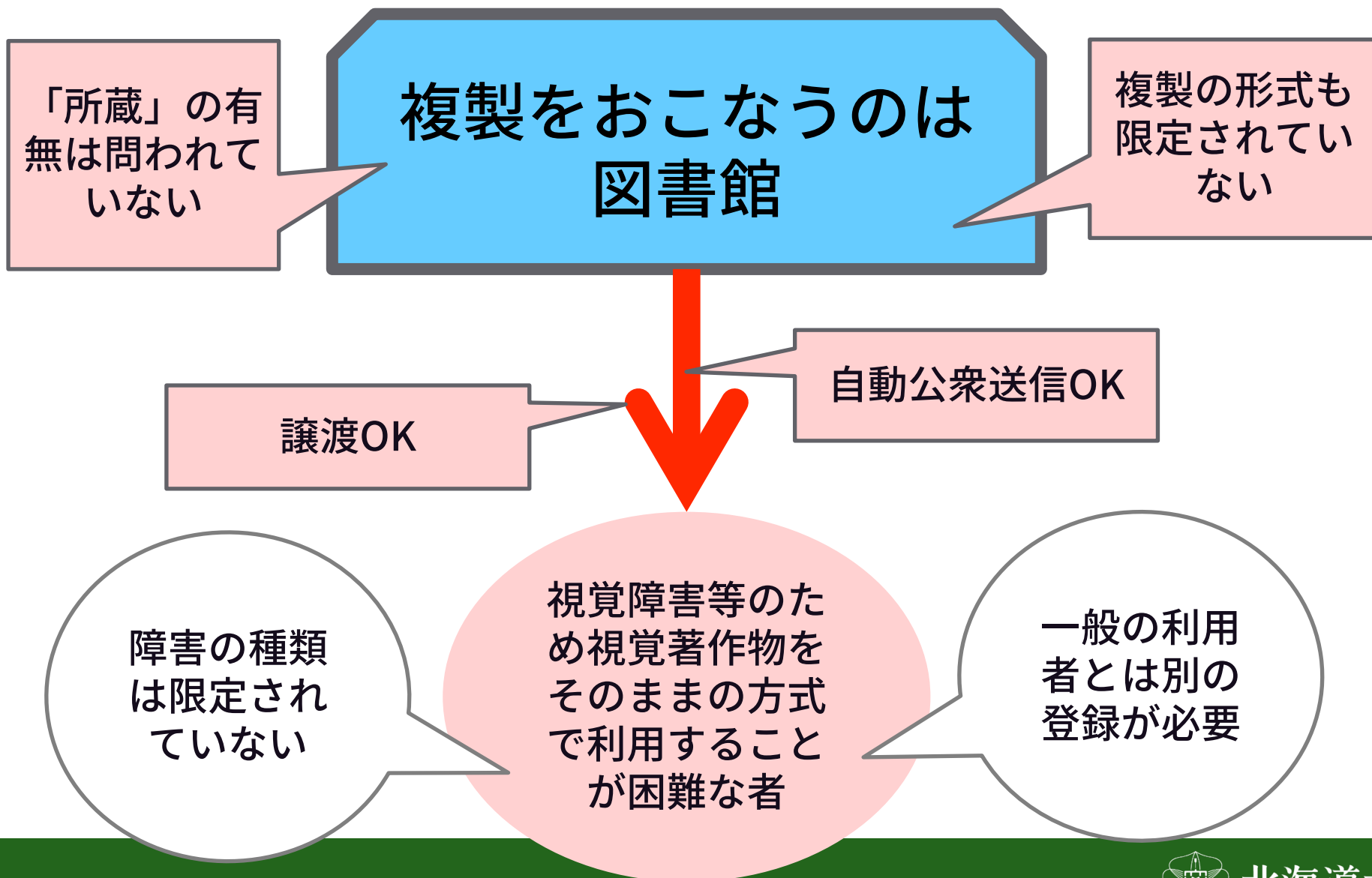
→具体的な運用について書かれているのがガイドライン。



電子化のための前提③著作権法第三十七条三項



電子化のための前提④ポイントまとめ



News
2019
年
1月1日
から

マラケシュ条約 批准

1. 2018年4月25日，参議院本会議において，「盲人，視覚障害者その他の印刷物の判読に障害のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条約」締結が承認され国会承認の手続が完了
2. 2018年10月1日に，日本政府がマラケシュ条約の加入書を世界知的所有権機関（WIPO）事務局長に寄託したことを発表
3. 2019年1月1日から日本国内において同条約が発効



2019
年
1月1日
から

マラケシュ条約 ポイント

各国で作成されたデータを，国境を越えて国外の視覚障害者等のために提供する国際的な枠組みを整備する目的で採択された

複製しても良い対象に「身体障害等により読字に支障のある者」が加わる

※ガイドラインにおいて，すでにこれらの者が含まれているので現状とはほぼ変わらない

2019
年
1月1日
から

マラケシュ条約 ポイント

複製されたDAISYデータ等を電子メールで視覚障害者等に送信することができる
★利便性UP！

一定の条件を具備したボランティアグループ等が、文化庁長官の指定なしに拡大図書やDAISYデータ等を作成して視覚障害者等に提供することが可能となる
※ 「一定の条件」については明らかにされていない

特別修学支援室との協働

ソフト面

プリント・ディスプレイのある
学生（利用学生）との話し合い

電子化行程の確認・見直し

電子化サービスの流れの検討・特別
修学支援室と附属図書館の役割分担

附属図書館スタッフの電子化作業の
スキル習得

特別修学支援室との協働

ハード面

電子化作業用のパソコン・校正ソフトなど機器の準備

電子化作業人員（支援学生）の確保

**2014年9月より，電子化サービス
(試行) をスタート**

2016年4月 電子化サービスの正式スタート



正式スタートでやったこと

利用案内

- 学内の方
- 学外の方
- 図書・雑誌の利用
- 語学教材・映像資料・マイクロ資料の利用
- パソコン等の利用
- 施設の利用
- 本館の開館日・利用時間・フロアマップ
- 北図書館の開館日・利用時間・フロアマップ
- 文献の取り寄せ
- 他大学等の図書館の利用
- 障がいのある方

サイト内検索

Google カスタム



利用案内 > 障がいのある方 > プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス

◆電子化サービスとは？

印刷された図書や雑誌を読むことが困難な利用者（たとえば視覚障害、ディスレクシア、四肢の障害など）のために、図書館の資料を電子化するサービスです。北海道大学以外の大学や機関にある資料も取り寄せて電子化することができます（取り寄せた場合は有料）。

※北海道大学の学部学生・研究生が利用できるサービスです。

• チラシは [こちら](#)

• 電子化された資料の一覧は [こちら](#) をご覧ください。

電子化の形式は4つから選べます

①PDF：文字情報を含まない画像ファイル

所要期間：約1週間

一度に申し込める件数：10件

②未校正テキスト：Wordファイルのテキスト。ただし文字校正はしていないので間違いが多数あることがある

所要期間：約2週間

一度に申し込める件数：10件

③テキスト：Wordファイルのテキスト。文字校正済みなので間違いは少ない

所要期間：約1ヶ月半～2ヶ月

一度に申し込める件数：3件

④電子ブック：校正したテキストを電子ブックに変換したもの

所要期間：約1ヶ月半～2ヶ月

一度に申し込める件数：3件

※資料電子化は、「[図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン](#)」で認められています。

※資料電子化サービスが受けられるのは…「視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者」です。具体的には「視覚障害、聴覚障害、肢体障害、精神障害、知的障害、内部障害、発達障害、学習障害、いわゆる『寝たきり』の状態、一過性の障害、入院患者、その他図書館が認めた障害の状態にあって、視覚著作物をそのままの方式では利用することが困難な者」をいいます（ガイドラインより）。

上記に当てはまる北海道大学の学部学生・研究生が対象です。詳しくはアクセシビリティ支援室でご相談ください。教職員で電子化をご希望の方もご相談ください。

Webサイト

正式スタートでやったこと

北海道大学附属図書館 利用支援課 総目利用課
〒060-0808 札幌市北区北9条西5丁目
TEL : 011・706・4095
FAX : 011・746・4595
E-mail : sogo[at]lib.hokudai.ac.jp

No.369

資料タイプ : 論文和

書名・論文名 : 聴覚障害のある人の他者とのやりとりに関する質的研究 : 心理臨床的文脈への定標がりとして / 広津信実子 / 聴覚言語障害 2011, vol40, No1

配架場所 : Medical Online (電子ジャーナル)

電子化範囲 : P41-P48

電子化ファイルタイプ : テキスト

備考 : 電子ジャーナルが公開されているため、PDFは提供しません

No.368

資料タイプ : 和書

書名・論文名 : 子どもと青年の攻撃性と反社会的行動 : その発達理論と臨床介入のすべて / Connor, Daniel F.
著, 小野 善郎訳

出版社 : 明石書店

配架場所 : 本館・健康閲覧室

請求記号 : 155.4/ONO

資料番号 : 0180877116

ISBN/ISSN : 9784750328713

刷年 : 2008

電子化範囲 : 100%

電子化ファイルタイプ : 透明テキスト付PDF (併せて全文のテキストも提供予定)

No.367

資料タイプ : 洋書

書名・論文名 : On caring / [by] Milton Mayeroff, 登倉貞夫編註

出版社 : 太田社

配架場所 : 保健科学研究所図書室・洋書

請求記号 : 128/M452

資料番号 : 8680063270

ISBN/ISSN : 4884686694

刷年 : 2000

電子化範囲 : 100%

電子化ファイルタイプ : 透明テキスト付PDF (全文のテキストも提供予定)

No.366

資料タイプ : 和書

書名・論文名 : 面接法 / 熊倉伸宏著

出版社 : 明石書店

リスト公開



「紙」の本が
読みづらいと
感じるあなたへ



図書館が“読みやすく”します

パソコン・タブレット・スマートフォン・音声読み上げなど、いろいろな読み方に対応できるように印刷された紙の資料を電子化するサービスを始めました。体が不自由だったり、視覚障害や学習障害など紙の本が読みづらい方のためのサービスです。

北海道大学の学部学生・院生等が
利用できます。

詳しくはチラシ・HPをご覧ください。

<http://goo.gl/GXXPLk>

問合せ先：

北海道大学 アクセシビリティ支援室 Tel011・706・7473

北海道大学附属図書館 相互利用担当 Tel011・706・4095



ポスター



1

特別修学支援室の利用登録



利用者

申請書提出

特別修学
支援室

登録

2

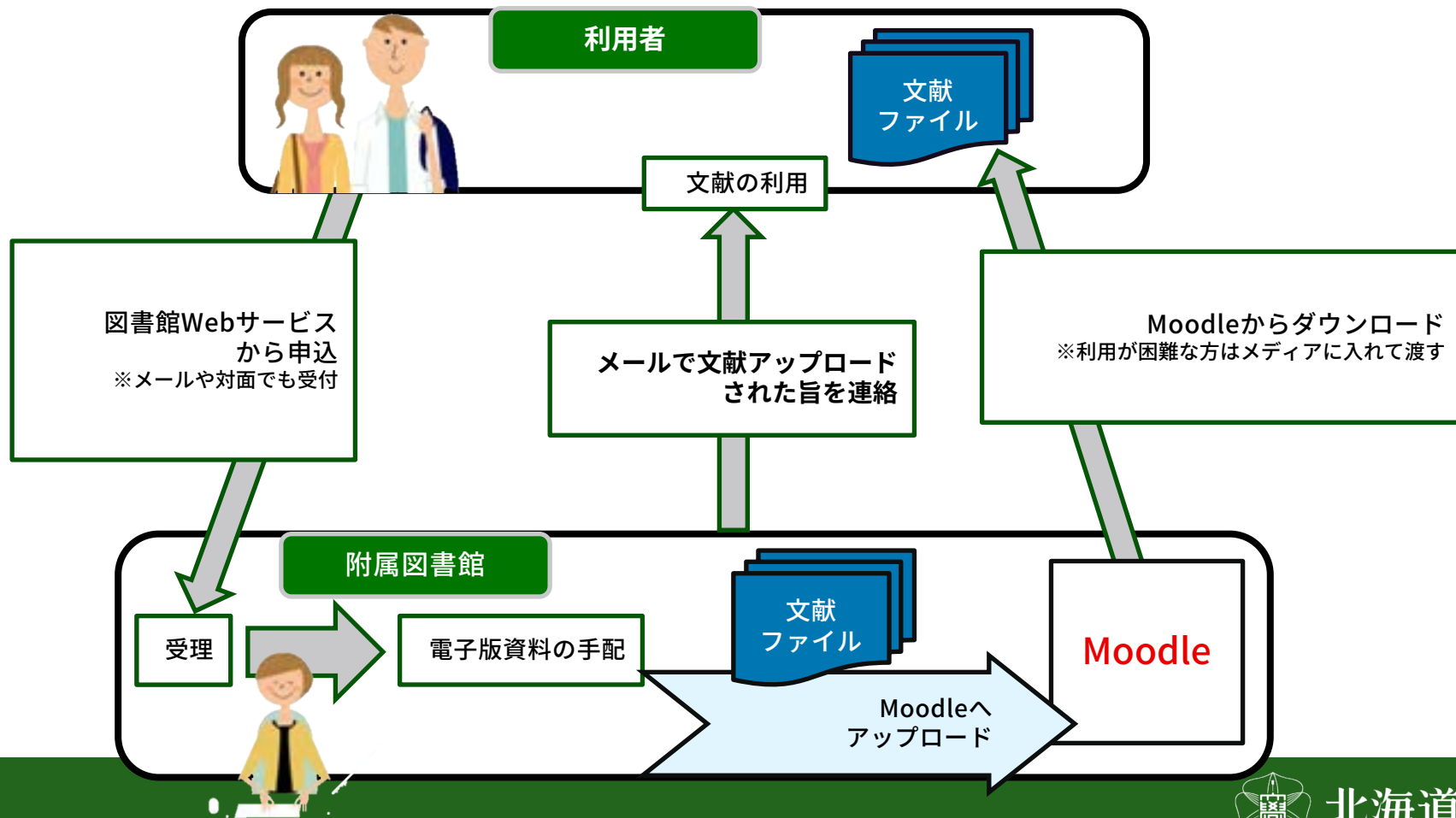
電子化のための利用登録



電子化サービスの流れ - 申込まで -

3

電子化したい文献があるときに申込む



電子化サービスの流れ - 電子化まで -

1

依頼受付

2

学内の所在確認

3

電子版の有無の確認

4

出版社に電子版の提供を依頼
(入手できれば⑦へ)

5

電子版の購入を検討
(購入した場合は⑦へ)

6

電子版が入手できなかった資料は図
書館で電子化

7

利用者に譲渡

1

文献のコピー

2

紙を切断して単一ページに

3

スキャンして画像化

4

OCRソフトで読み込む

5

文字校正

6

(必要があれば) 電子ブック化

1

文献のコピー

工程については
論文「プリン
ト・ディスアビ
リティのある利
用者のための資
料電子化サービ
ス」に詳細有

説明は
割愛
ゴメン
ナサイ

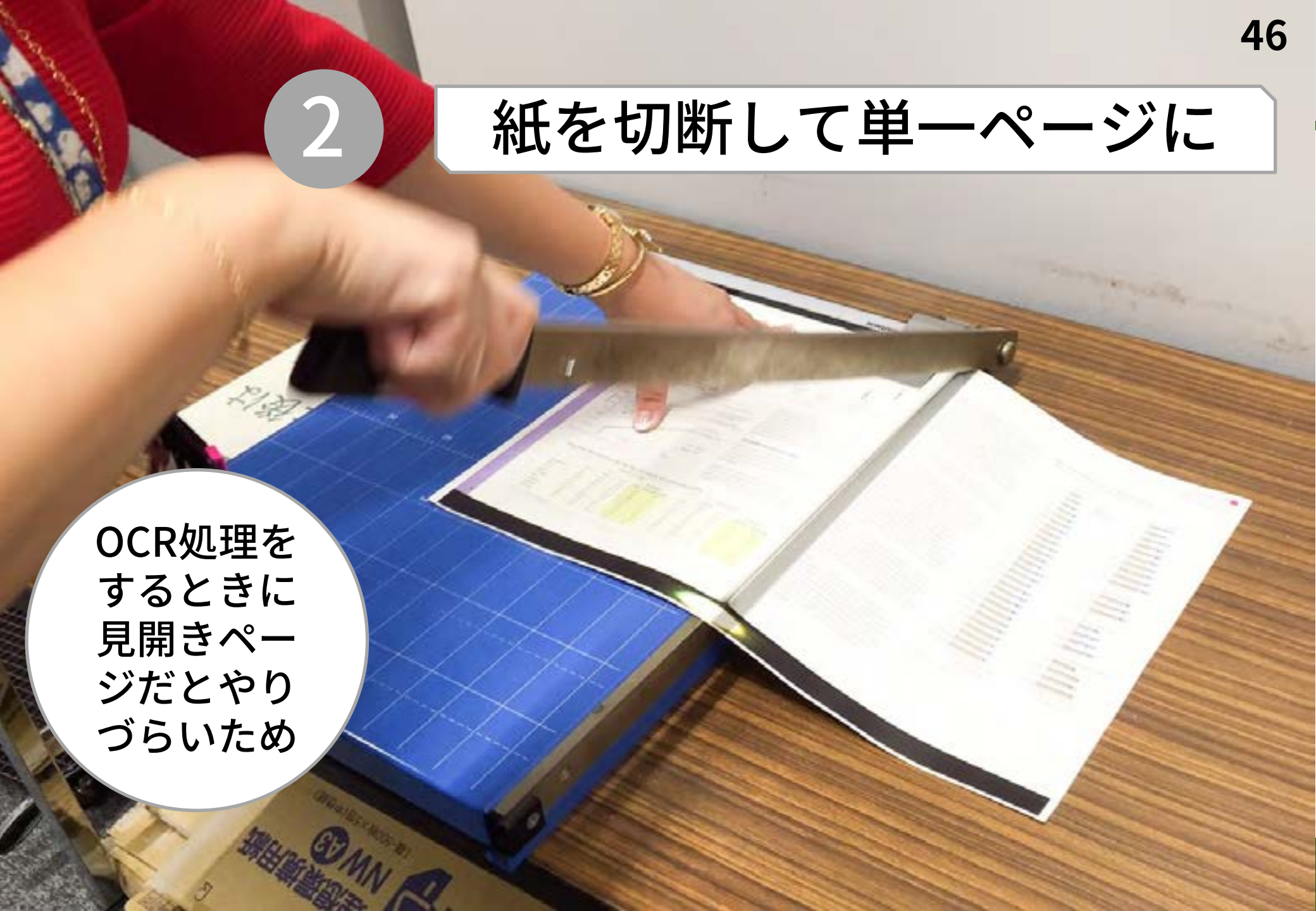
紙の無駄になる
ので、北大所蔵
資料はコピーし
ていない



2

紙を切断して単一ページに

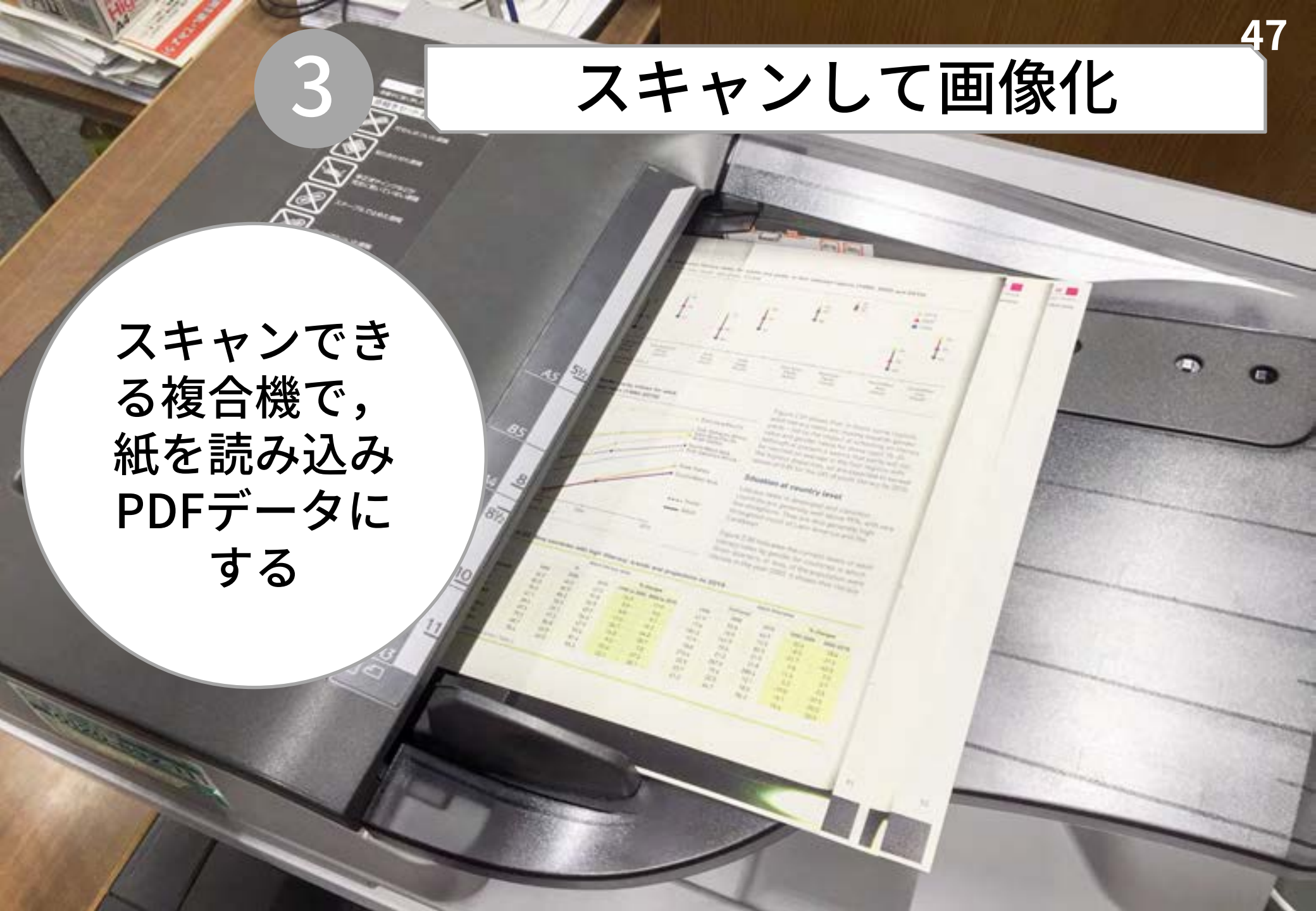
OCR処理を
するとき
に見開きペー
ジだとやり
づらいため



3

スキャンして画像化

スキャンできる複合機で、紙を読み込みPDFデータにする



3

スキャンして画像化

タブレットやパソコン，電子書籍リーダーを使って閲覧したい人はこれ（PDF）でOK！

OCRのソフトはたくさんありますが、北海道大学では「e.Typist（メディアドライブ株式会社）」を使用



文字校正が終わればテキストが完成

◆音声読み上げ

◆別の閲覧用のソフトで利用
する

こんな場合はテキストが必要！

- ◆ 利用者の希望があれば
- ◆ 利用者の見やすい字の大きさに読める
- ◆ 目次や注釈から該当箇所へリンクを貼れるので読みやすい

- 音声読み上げ可能
- 電子ブックを読むリーダーが必要！

	①PDF	②未校正テキスト	③テキスト	④電子ブック
内容	文字情報を含まない 画像ファイル	Wordファイルのテキスト。 ただし文字校正はしていないので間違いが多数あることがある	Wordファイルのテキスト。 文字校正済みなので間違いは少ない	校正したテキストを電子ブックに変換したもの
所要期間	約1週間	約2週間	約1ヶ月半～ 2ヶ月	約1ヵ月半～ 2ヶ月
一度に 申し込める件数	10件	10件	3件	3件
パソコンでの 閲覧	○ ※Adobe Reader等 が必要	○	○	○ ※電子ブック リーダーが必要
スマートフォン・タブレット 端末での閲覧	○ ※アプリが必要で各 アプリに合わせた変換が必要	○	○	○
電子書籍リー ダーでの閲覧	○ ※一部非対応	△ ※各リーダーに合 わせた変換が必要	△ ※各リーダーに合 わせた変換が必要	○
印刷	△	○	○	×
音声読み上げ	×	○	○	○
テキストの コピー	×	○	○	○

特別修学支援室との協力体制

特別修学支援室との協力体制

特別修学支援室

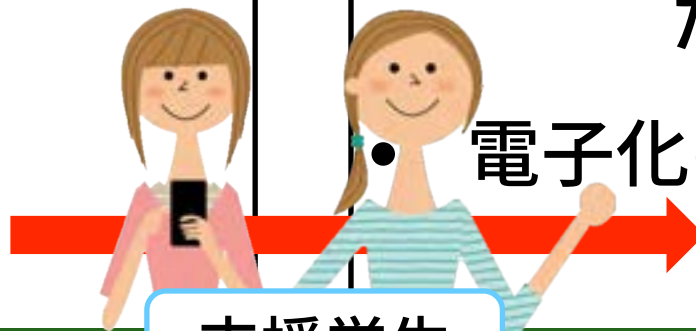


- 利用者の登録
- 利用者への案内，サポート
- 支援学生の雇用
- 支援学生の労務管理

附属図書館



- シフトの作成・管理
- 図書館における支援学生の管理
- 電子化する資料，校正のための機器の用意
- 電子化の実作業すべて



支援学生

特別修学支援室との協力体制

◆ 作業人員 2014年度：図書館職員1名

2015年度：図書館職員1名＋支援学生（特別修学支援室で雇用）8名＝合計9名



◆ おもに **5** **文字校正** を学生は担当

★最終校正は図書館職員がおこなっている

特別修学支援室との協力体制

2018年度現在

職員
2名

学生
7名

全員
電子化支援
2年目
以上

新しい支援
学生が増え
ないのが
課題

支援学生
の研修に
ついては
のちほど



特別修学支援室との協力体制

◆ 作業用端末：2台（e.Typist）



◆ 作業体制：1人1日2時間まで。1日2～6名が作業

※ 依頼が無いときは作業は無い

作業のようす
MOVIE

電子化の成果

◆利用学生：プリント・ディスプレイのある学部生1名，大学院生1名

※卒業生を含めると述べ4名

◆期間：2014年9月末～2018年9月末現在



電子化の成果 | 2018年9月末現在

		出版社提供	出版社 から購入	出版社から購 入したものを 図書館が加工	図書館で 電子化	図書館＋特 別修学支援 室で電子化	合計
図書	和	17	1	5	154	10	187
	洋	5	0	1	17	0	23
雑誌 論文	和	0	3	0	86	0	89
	洋	0	0	0	0	0	0
合計		22	4	6	257	10	<u>299</u>



電子化の成果 | 2018年9月末現在

		PDF	未校正テキスト	テキスト	Epub	合計
図書	和	110	18	59	0	187
	洋	18	0	5	0	23
雑誌論文	和	77	0	12	0	89
	洋	0	0	0	0	0
合計		205	18	76	0	<u>299</u>

利用学生の声

今までは家族に助けてもらい，自分で自炊していた。それを考えると助けてくれる人が増えたのがうれしい。

今までは人のいない時間に研究室に行って一人でたくさんコピーし，電子化したり苦勞をたくさんした。

助けてくれて本当にうれしい。支援学生のみなさんにもお礼を言いたい！



利用学生の声

電子化資料のリスト
が見つらいので
Excelのリストのほ
うが良い。

→Excelのリストも
公開した

助かっている。ありが
とうございます。

テキストの形式等につい
ては、他の方とも意見を
交換してより良くしたい。



コストについて

校正作業の処理速度 現在の平均処理時間

◆ 洋書 16.84p / 1時間

◆ 和書 19.01p / 1時間

* 文字校正のみの時間

* 最近では和書の依頼が多いので慣れて速くなっている。洋書のほうがOCRの読み取りは正確。

* 厚い本だと影が入り、認識精度が下がるので時間がかかる

* 目標は30p / 1時間

コストについて

1冊300p, 作業員の時給を1,000円として算出

コピー&スキャン
1冊2時間

+

校正作業

+

最終校正
1冊6時間

◆ 洋書 $2+18+6=26\text{H}$ 26,000円
/冊

◆ 和書 $2+16+6=24\text{H}$ 24,000円
/冊



サーブスインしてみてわかったこと 今後の課題

サービスインして見てわかったこと

電子化作業に取りかかる前に 出版者に連絡した方がよい

- ◆ 連絡は国内外ともに電子メールでおこなっている
- ◆ 電子版をもらえる場合がある
- ◆ 利用者のニーズを出版者に知ってもらおう



サービスインしてみてわかったこと

定期的に やり方を見直した方がよい

- ◆ 作業結果が大量に蓄積され広く使われるようになるにつれ，保存法・検索法・提供法を見直す必要がある
- ◆ 最初のやり方のままだと利用者に不便が生じることもある
- ◆ 校正ルール等も日々バージョンアップしていく

サービスインしてみたてわかったこと

利用者の障害に合わせて 希望をデータに反映させるべき

- ◆ プリント・ディスプレイがあるという状況は一人ひとり異なる
- ◆ テキストも利用者によって使い方が異なる
- ◆ 利用者と密接に連携し、希望をデータに反映させる必要がある

サービスインしてみてわかったこと

担当者の知識も

日々バージョンアップ！

- ◆ 適切・効率的な作業を行うためには、ソフトウェアやデータについての知識が必要
 - スキャニングの解像度や諧調の設定
 - 外字の処理（UniCodeとsJISCodeの関係等）

サービスインしてみたてわかったこと

学内他部署，学外その他機関との 連携・協力が大切

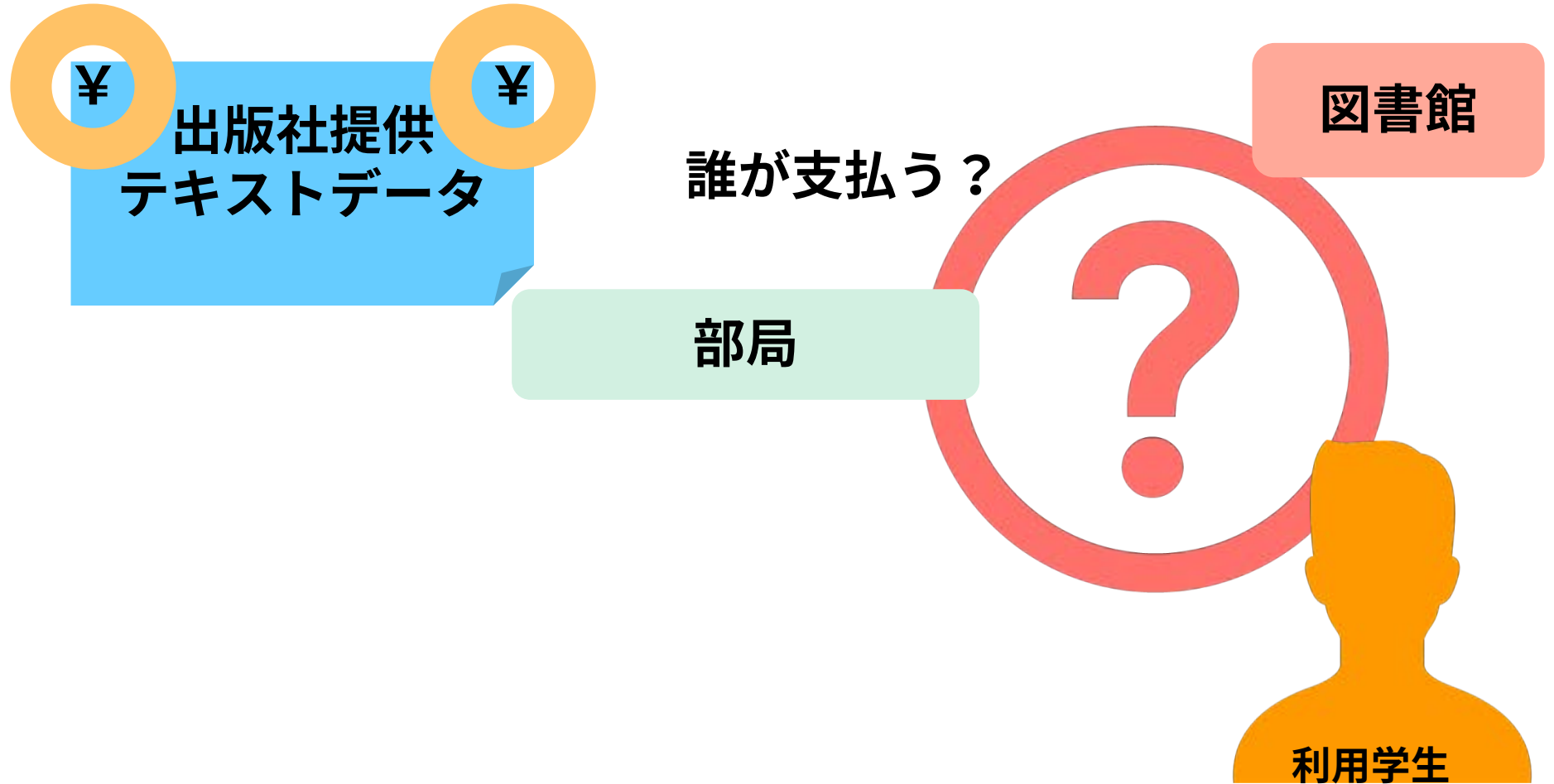
- ◆ 特別修学支援室との連携
- ◆ 他の図書館との相互利用



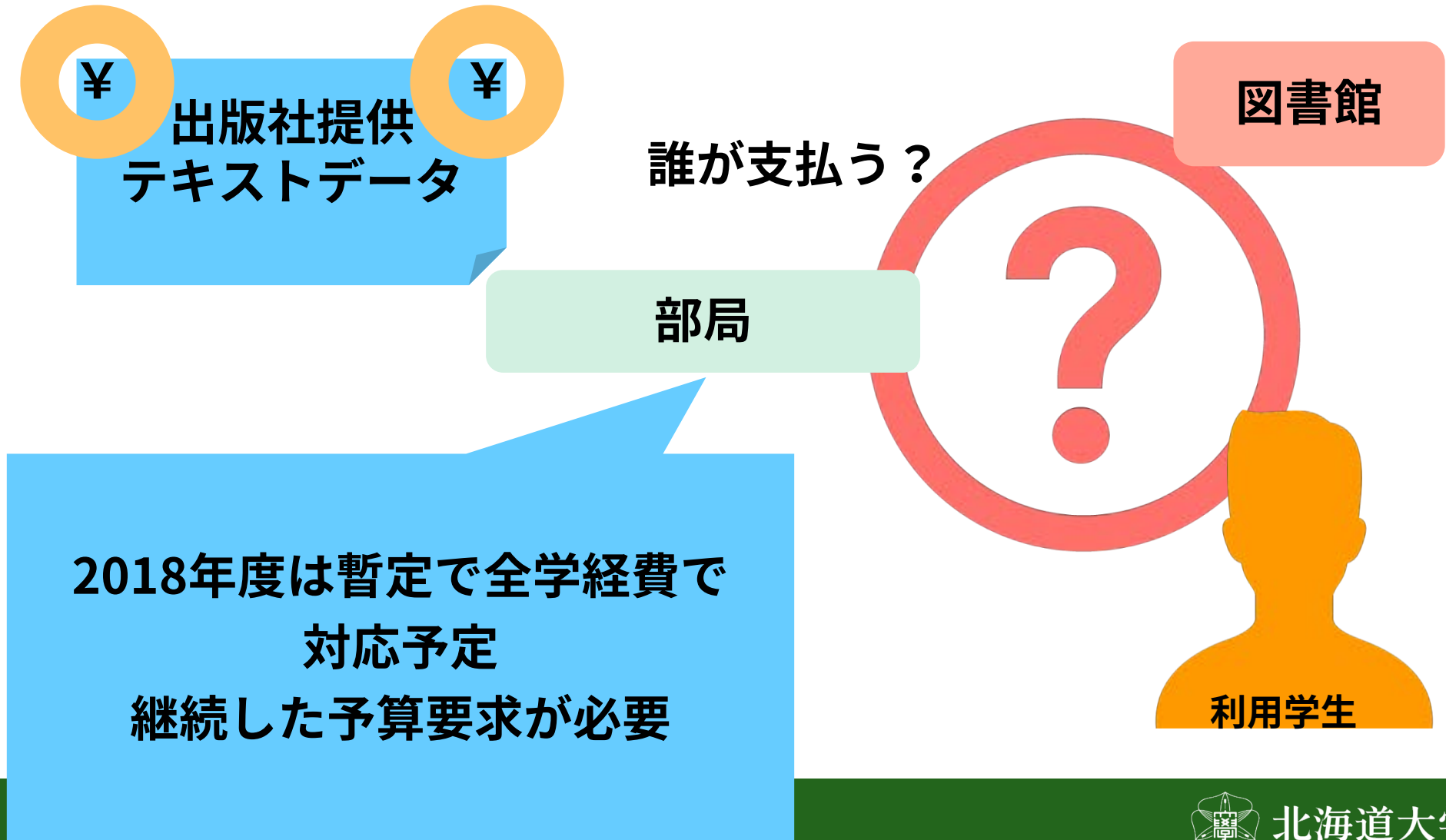
今後の課題

テキストデータ購入の枠組み作り

テキストデータ購入の枠組み作り



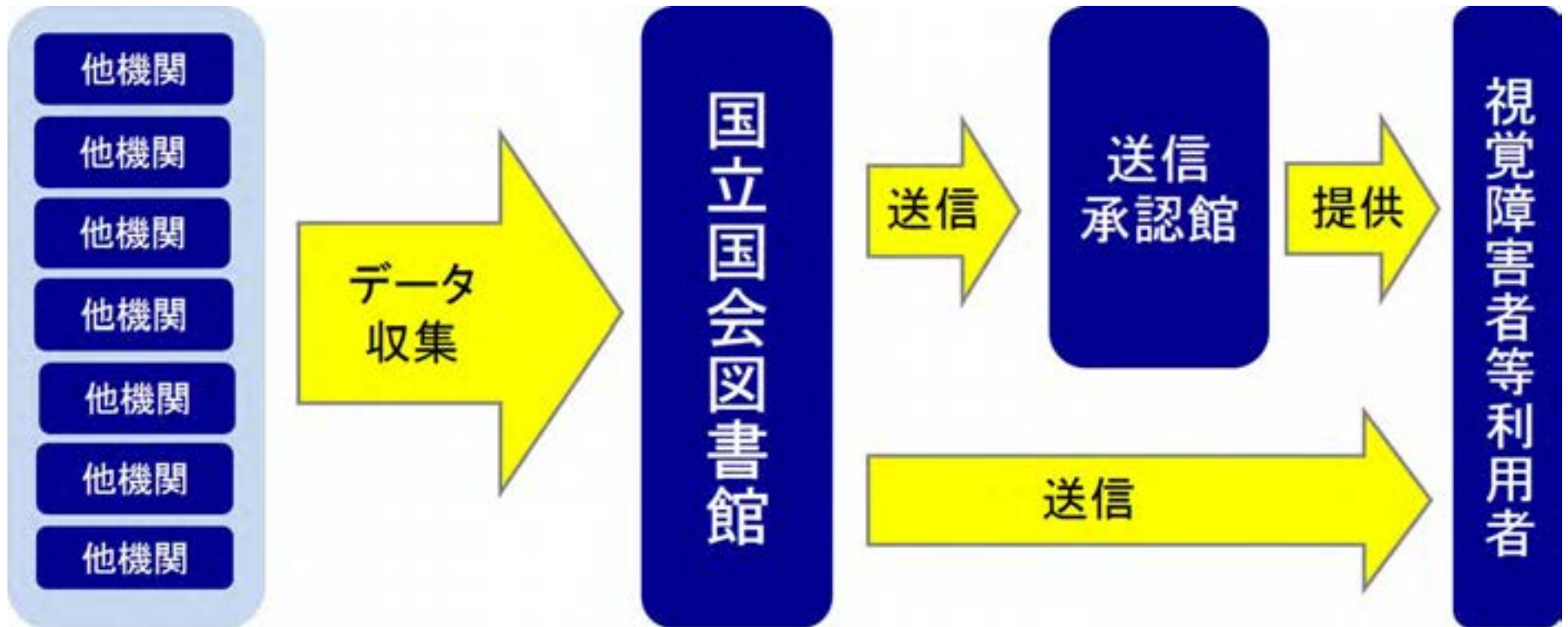
テキストデータ購入の枠組み作り



電子化資料の相互利用

国立国会図書館 視覚障害者等用 データの収集および送信サービス

視覚障害者等用データの収集および送信サービス



視覚障害者等用データの収集および送信サービス

- ◆ 北海道大学は2017年7月4日付「データ提供館」として承認された
- ◆ 立命館大学（2017年5月31日）に続き国内2館目。国立大学としては初の協定締結

視覚障害者等用データの収集および送信サービス

◆ 北海道大学は2017年7月4日付「デー

ただし11月30日現在
北海道大学附属図書館

データの提供実績は0件



視覚障害者等用データの収集および送信サービス

自館の利用者への電子化作業を優先している

電子化以外にも優先すべき業務が多い

データアップロードに関するガイドラインが無く、どのようなデータをアップロードすれば良いかわからない

データの標準化，
そのためのガイドライン等の制定が期待される

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

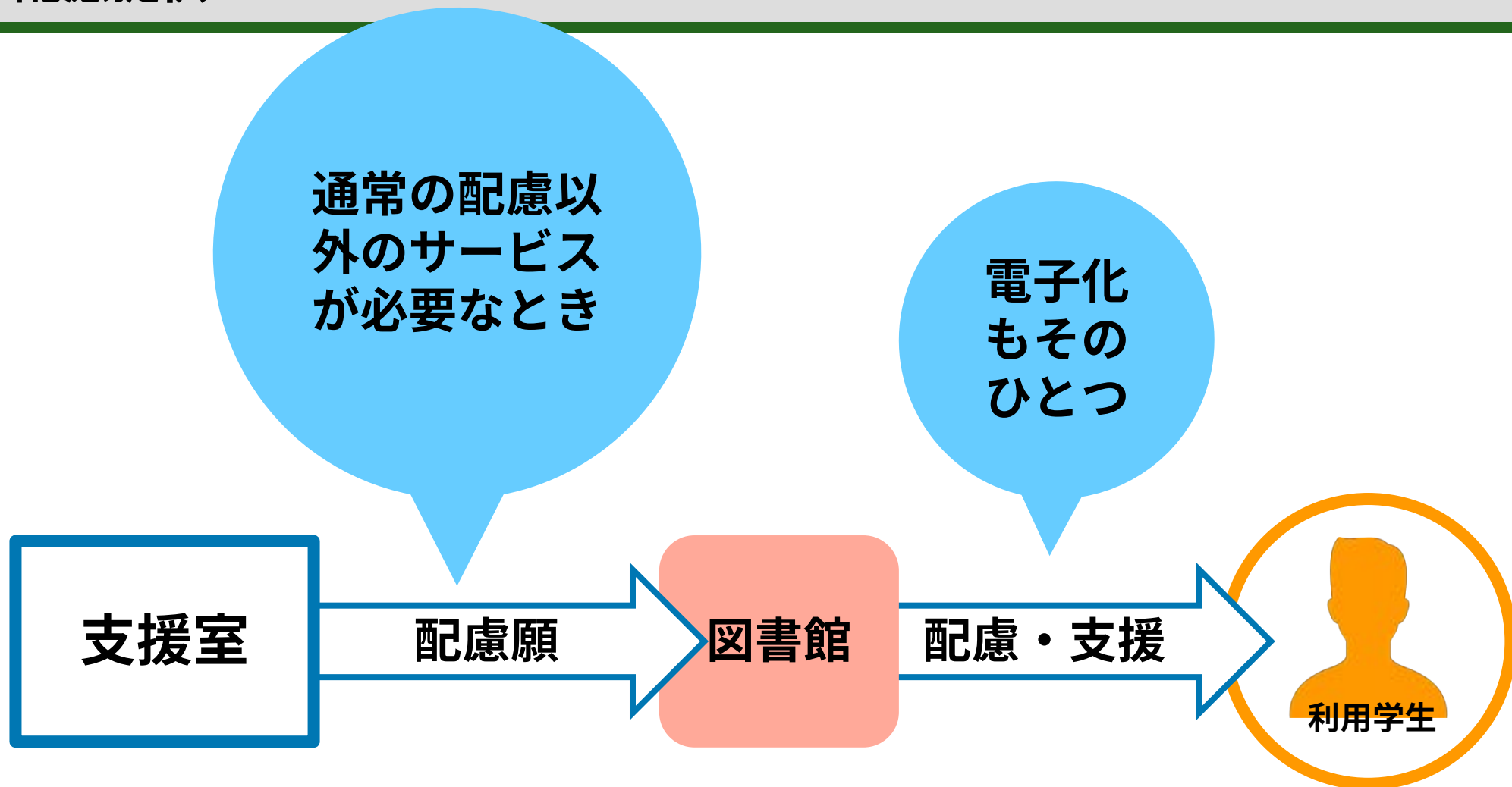
学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

協働の取り組み②

配慮提供

配慮提供



本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

協働の取り組み③

支援学生向けの研修

学びのユニバーサルデザイン入門

◆ 全学教育科目 2014～2016年度

◆ 到達目標

1. 高等教育における障害学生支援の現状理解。
2. 学びのユニバーサル・デザインの概要を理解する。
3. 支援環境として機能する技術を体験・習得する。
4. 特別修学支援室において支援員として登録可能な知識と技術を習得する。
5. 北海道大学における学びのユニバーサルデザイン化における実際的な提言ができる

◆ 教員：松田 康子先生（北海道大学大学院教育学研究院）

学びのユニバーサルデザイン入門

1	オリエンテーション／高等教育における障害学生支援の実際	8	プリントディスアビリティに関する情報保障②文献電子化に関する基礎知識／電子化作業工程
		9	プリントディスアビリティに関する情報保障③文献電子化実習
2	学びのユニバーサル・デザインとは	10	プリント・ディスアビリティに関する情報保障④印刷業界の挑戦
3	「学び」にかかわる制約と制限を知る	11	まなざしのユニバーサル・デザインを考える（当事者の体験を聴く）
4	「聞く」に関する情報保障①理論編	12	「移動」に関する参加機会の保障 バリアはどこに？（構内編）
5	「聞く」に関する情報保障②手書きノートテイク実習	13	「移動」に関する参加機会の保障 車椅子の移動介助の基本（構内）／デモンストレーション
6	「聞く」に関する情報保障③PCノートテイク実習	14	「移動」に関する参加機会の保障 雪上での車椅子の移動介助（構外）／雪上デモンストレーション
7	プリント・ディスアビリティに関する情報保障①テクノロジーの活用を知る	15	グループワーク（北海道大学における学びのユニバーサルデザイン化における提言）



学びのユニバーサルデザイン入門

- ◆ この授業の受講者から電子化の支援学生を募集している
- ◆ 2014年度：6名
- ◆ 2015年度：2名
- ◆ 2016年度：0名
- ◆ 2017年度：0名

2016年度からはカラーユニバーサルデザインについてもお話しています

年々減っているのが課題。
新たな支援学生研修の方法を考えねば…

キャンパスアクセシビリティ入門

- ◆ 2017年度から特別修学支援室の教員が担当となって科目名が変更
- ◆ 図書館は変わらず電子化についての講義と実習を担当
- ◆ 2018年度も講義を行った

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

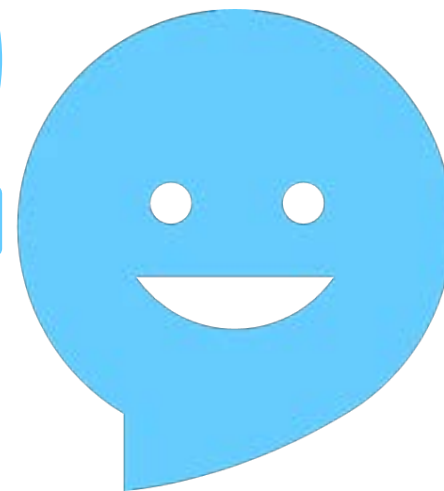
ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

説明は
割愛
ゴメン
ナサイ



協働の取り組み④

インターンシップ受け入れ

インターンシップ受け入れ

ポジティブな
感想

多くの収穫が
あった

自尊感情尺度
Rosenberg's
Self-esteem
Scale
が高くなった

特別修学支援室
利用学生

特別修学支援室
利用学生

附属図書館（本館）で2日間インターンシップ

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

協働の取り組み⑤

対応要領の策定



対応要領の策定

- ◆ 国立大学法人北海道大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領
- ◆ 支援室の教員が中心となって制定した
- ◆ 図書館職員もオブザーバーとして参加

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

特別修学支援室の支援を受けた

北大図書館の取り組み①

貸出に関する合理的配慮

配慮

現状

札幌キャンパス内の
の図書は自分で取
りに行く

返却もそれぞ
れの図書館へ

本館⇄北図書館
のみ相互返却可

返却期限を4日
以上過ぎるとペナル
ティ

約1.9km

約15分

約1km

1箇所
まとめて
貸出

1箇所
まとめて
返却

返却期限
の延長・
ペナル
ティの即
時解除

図書館に来
なくても事
前に貸出,
受け取りや
すい窓口で
受け渡し



本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

過去の分は
割愛
ゴメン
ナサイ

特別修学支援室の支援を受けた
北大図書館の取り組み②

施設・設備の見直し



施設・設備の見直し

図書館のアクセシビリティ調査 2018年3月実施

図書館のアクセシビリティ調査

- ◆ 調査目的：図書館のアクセシビリティを調査し，バリアを知ることで，改善点を洗い出す
- ◆ 調査期間：2018年3月
- ◆ 調査項目について
 - バリアフリー法の中の「建築物移動等円滑化基準（最低限のレベル）」を基準とし，特別修学支援室で行ったアクセシビリティ調査や，筑波技術大学の先生にご指摘いただいた項目などを織り交ぜている。※図書館は「特定特別建築物」であり，規模に関わらず「建築物異動等円滑化基準」に適合させなければならない

図書館のアクセシビリティ調査

◆ 調査する際に考慮したい障害のある方

- 車椅子・松葉杖など体の不自由な方／色弱／弱視・盲目など目の不自由な方／耳の不自由な方

◆ 調査する場所の項目分け

- 閲覧室／書庫／メインストリートから建物正面入口／多目的トイレ／エレベーター／階段



図書館のアクセシビリティ調査

閲覧室

本館 () / 北図書館 ()

調査日： 年 月 日 : 頃 調査者：

調査方法
 質問内容に沿ってチェックをしていく
 NOだった場合は内容を記述し、写真で記録する
 チェックすることではなく改善することが目的なので改善案を考えながら内容を記録する

NO.	大分類	質問内容	チェック結果	NOだった場合：具体的内容
1	廊下等	階段・段が設けられていないか（傾斜路又はエレベーターその他の昇降機を併設する場合は免除）	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
2	廊下等	表面は滑りにくい仕上げであるか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
3	廊下等	通路の幅は120cm以上であるか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
4	廊下等	区間50m以内ごとに車いすが転回可能な場所があるか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
5	廊下等	戸は車いす使用者が通過しやすく、前後に水平部分を設けているか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
6	展示物・書架	展示物や書架の幅は十分に確保されているか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
7	展示物・書架	展示物や掲示物等が歩行の妨げになっていないか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
8	展示物・書架	展示物や掲示物等は視覚障害者がぶつからないように設置の場所や掲示板を自立させる等の工夫がされているか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
9	展示物・書架	展示物の説明については音声・文字等の情報提供を行っているか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	
10	展示物・書架	休憩場所・椅子が適宜設けられているか	<input type="checkbox"/> YES / <input type="checkbox"/> NO / <input type="checkbox"/> チェック対象外	

本館チーム(3名)と北図書館チーム(2名)で分担して調査

改善できたこと

多目的
トイレ

手洗いが作動していなかったのを
作動するようにした

駐車場

障害のある方用の駐車スペースの
案内表示を出した

改善できたこと

Before



After



書棚を減らし通路幅を
確保（各階2箇所）

改善できたこと



After

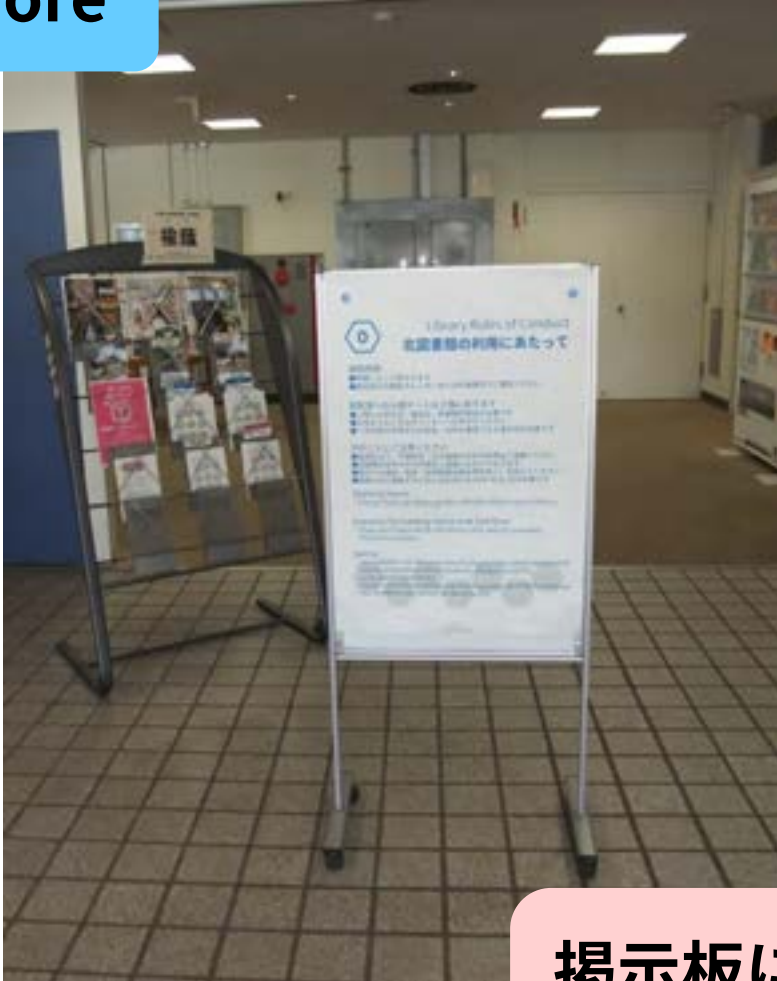


階段にトラ柄テープ
貼付



改善できたこと

Before

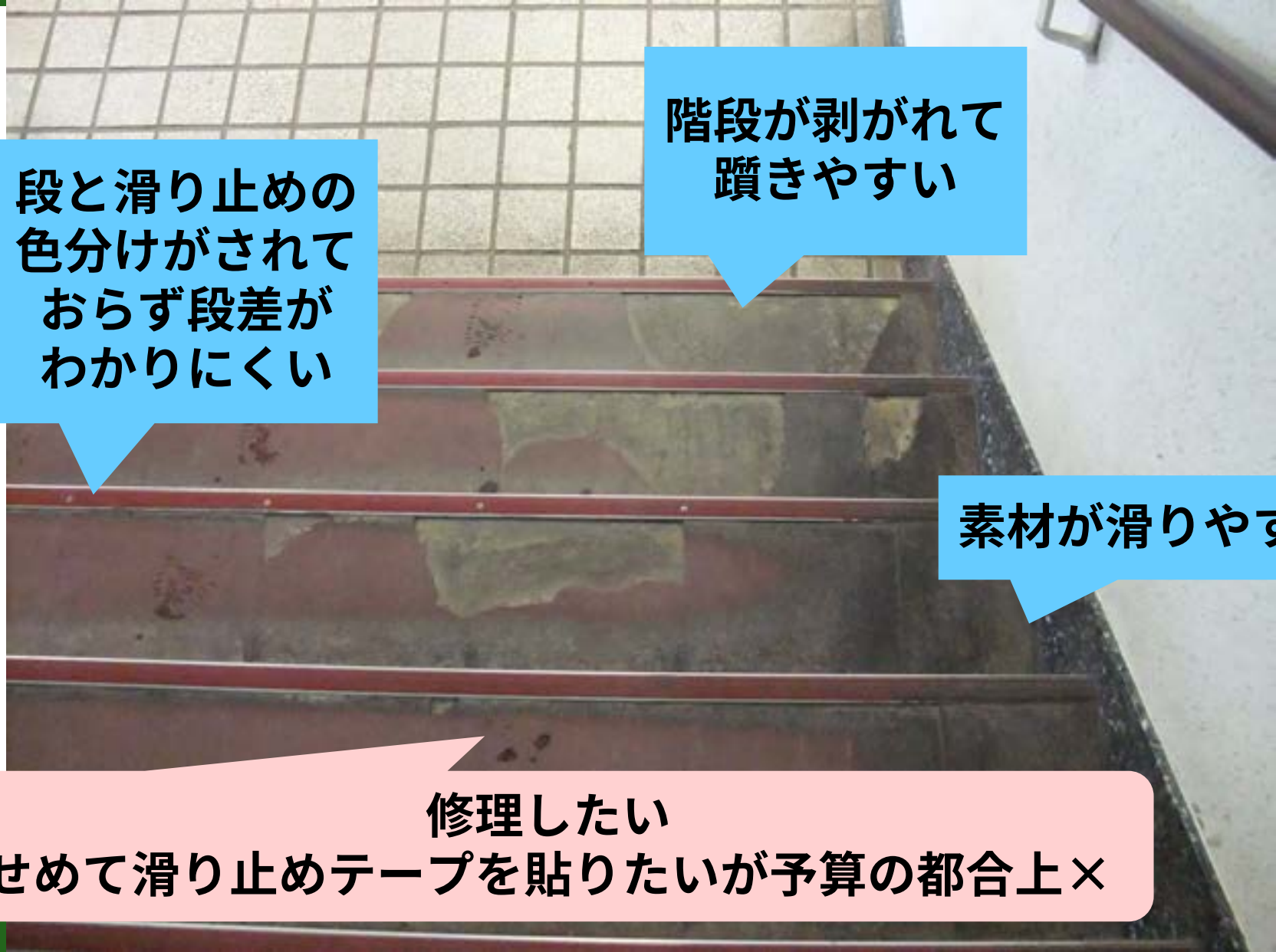


After



掲示板にトラ柄テープ
貼付

コリャあぶない



段と滑り止めの色分けがされておらず段差がわかりにくい

階段が剥がれて
躓きやすい

素材が滑りやすい

修理したい
せめて滑り止めテープを貼りたいが予算の都合上×

コリャあぶない

色分け
おら
わか

これくらいコントラストが
あるほうが段差がわかりやすい

い

調査してみてもわかったこと

- ◆ 新しい建物のほうが比較的基準に沿っているが、
そうとも限らない箇所もあり油断ならない
- ◆ 掲示物，サイン等は自分たちですぐに改善できる
- ◆ 費用の必要なものは継続した予算請求が必要

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

特別修学支援室の支援を受けた

北大図書館の取り組み③

ウェブサイトでの情報提供

ウェブサイトでの情報提供



- 利用案内**
- 学内の方
 - 学外の方
 - 図書・雑誌の利用
 - 活字教材・映像資料・マイクロ資料の利用
 - パソコン等の利用
 - 施設の利用
 - 本館の開館日・利用時間・フロアマップ
 - 北図書館の開館日・利用時間・フロアマップ
 - 文献の取り寄せ
 - 他大学等の図書館の利用
 - 障がいのある方

サイト内検索

Google カスタム

お問い合わせ > 障がいのある方
障がいのある方

障がいのある方にも安心して附属図書館（本館・北図書館）を利用してもらえるよう、以下の窓口でご質問・ご相談をお受けしています。不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

本館 : TEL 011-706-3956 E-Mail ud@lib.hokudai.ac.jp
 北図書館: TEL 011-706-5575 E-Mail kitaug@lib.hokudai.ac.jp
 *E-Mailの@は半角に直して送信してください。
 *また「ここをこうするともっとよくなると思う」といった気づきもぜひお聞かせください。

実際に利用していて何か支障がありましたら、カウンターの職員にどうぞお気軽にご相談ください。カウンターや館内では以下のような配慮を行っています。リーフレット「利用案内[ユニバーサルデザイン編]」(PDFファイル) [表示](#) 出及 [印刷](#) 版もご覧ください。

- プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス
 (北海道大学の学部学生・教員等が利用できるサービスです)

印刷された図書や雑誌を読むことが困難な利用者の方（視覚障害、ディスレクシア、四肢の障害など）のために、図書館の資料を電子化（画像・テキスト・電子ブック）するサービスです。北海道大学図書館所蔵の資料はもちろん、他大学や他機関にある資料も取り寄せて電子化することが可能です（取り寄せは有料）。



詳しくは [こちら](#) をご覧ください。

- 本館（北図書館は [こちら](#)）

本館フロアマップ（青い枠内の文字もしくは青い丸をクリックすると、詳しい説明へ移動します）



障害のある方へのサービス・フロアマップ

ウェブサイトでの情報提供

ユニバーサルデザイン@北図書館

北図書館南側に身体障がい者用駐車スペースがあります。正面玄関には車椅子用スロープがあり、インターホンでエレベーターを呼び出し、閲覧室に入れます。
 ※北図書館、情報教育部、高等教育推進機構はそれぞれ建物の2階がつながっています。



総合カウンタースタッフがあなたの利用をサポートします

利用していて困ったときは、2階の総合カウンターへ。ノート型のホワイトボードがあり、筆談でも問い合わせできます。また、ルーペ（1個）や車椅子（1台）の貸出も行っています。



不明な点・不便な点があればお知らせください

- 本館**
 TEL 011-706-3956
 E-Mail udl@lib.hokudai.ac.jp → 
- 北図書館**
 TEL 011-706-5575
 E-Mail kitasv@lib.hokudai.ac.jp → 
- 調べ物をお手伝いします（調査支援担当）**
 TEL 011-706-2973
 FAX 011-746-4595
 E-Mail ref@lib.hokudai.ac.jp → 
- 詳しくはWebサイトをご覧ください**
http://www.lib.hokudai.ac.jp/services/universal_design → 



2014年9月 北海道大学附属図書館

北大図書館は
 “学生みんなが使いやすい”
 を目指します



リーフレット
 を公開
 紙でも配布

北海道大学附属図書館 利用案内
 ～ユニバーサルデザイン編～

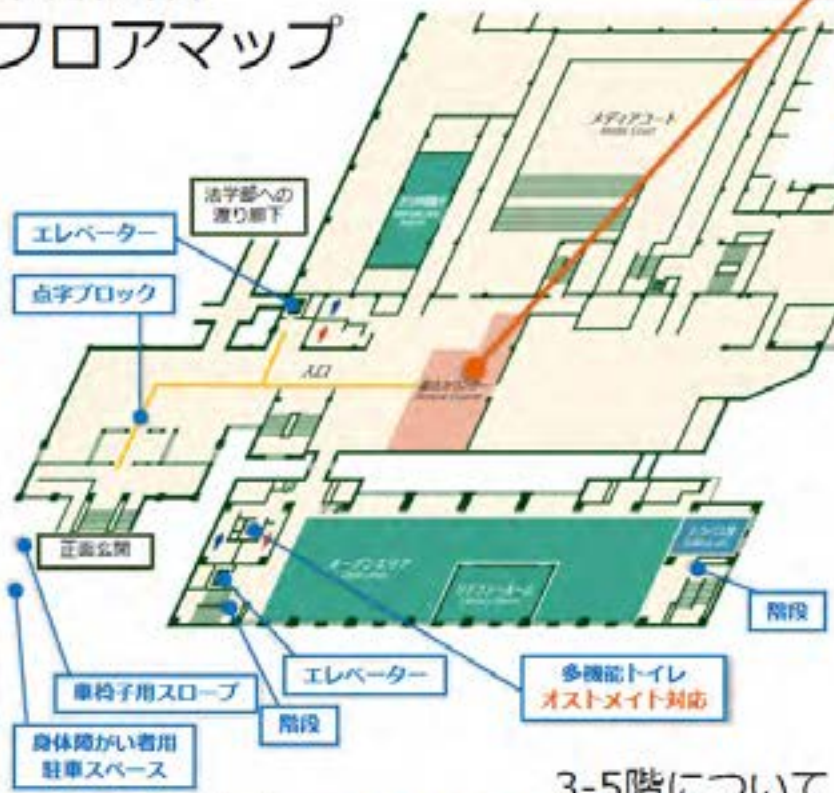
ウェブサイトでの情報提供

ユニバーサルデザイン @図書館本館

本館2階フロアマップ

総合カウンターのスタッフがあなたの利用をサポートします


利用していて困ったときは、2階の総合カウンターへどうぞ。




 正面玄関左手に身体障がい者用駐車スペース (1台) があります。約7.4(車長)×3.3(車幅)m

 正面玄関には車椅子用スロープがあります(両側に手すり)。スロープ幅:150cm以上 手すりの高さ:約120cm

 正面玄関から総合カウンターまで、エレベーター(ラウンジ、グループ学習室へ)まで点字ブロックを敷設しています。

 エレベーター(2か所)には正面と左上に鏡を設置。扉の閉鎖・昇降・到着音を音声で案内します。

 閲覧室内の階段には両側に手すりがあります。また、手すりには点字で階数も表示しています。

 ※書庫の階段には手すりがありません。昇降が困難な方へは職員が本を取ってきます。

 3階には車椅子用の閲覧机があります。机の下にあるリモコンで、高さの調節ができます。内幅:89cm

 車椅子(1台)の貸出をしています。

 本を入れるカート(3台)の貸出をしています。

 大小のホワイトボードがあり、筆談でも問い合わせできます。

 拡大鏡(1個)の貸出をしています。

総合カウンター左手奥にある参考調査カウンターでは、平日9時~17時に本館のご相談をお受けしているカウンターがあります。電話・FAX予約も可能です。
※連絡先は裏面に記載

3-5階について

3階には、新書の雑誌や新聞、文庫・新書、哲学分野の本などがあります。
4階には、社会科学や数学分野の本などがあります。
5階には、医学や歴史学分野の本などがあります。
詳しくはこちらをご覧ください



リーフレットを公開紙でも配布



本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

特別修学支援室の支援を受けた
北大図書館の取り組み④

図書館職員の研修

論文に記載してあるので割愛



本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

ゴメン
ナサイ



学外との連携・学外発表

論文に記載してあるので割愛

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題

これからの目標・課題

これからの目標・課題

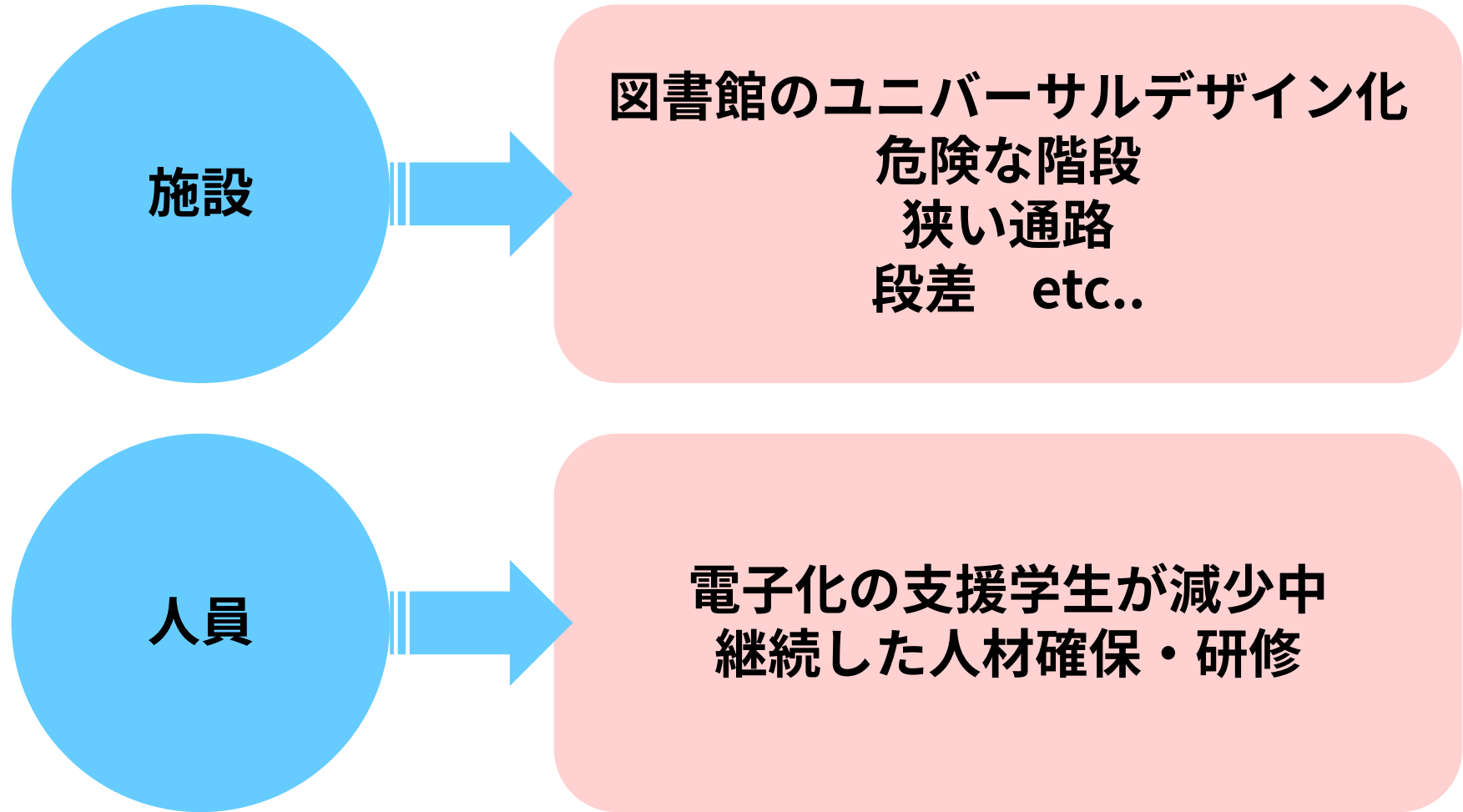
組織

障害者サービスは図書館全体で取り組むことだが
図書館員の当事者意識に差がある

予算

支援学生への給与
図書館員の研修
電子化のための道具購入
継続した予算請求が必要

これからの目標・課題



これからの目標・課題

電子化
データ

適正化が常に必要
校正ルールの見直し
リストの作り方

電子化
データ

保管場所やデータのアップロード
場所は今のままでOK？
視覚障害者等用データの収集およ
び送信サービスを活用する？

参考文献・サイト等

◆ 修学支援について

- 松田康子「高等教育における障害学生支援と合理的配慮の検討 ; ひとりの障害学生への聴きとり調査を事例に」北海道大学大学院教育学研究院紀要117 (2012) p205-229
<http://hdl.handle.net/2115/51039>
- 松田康子・村松哲夫「北海道大学障害学生支援組織ができるまで: チームアプローチの視点による検討」北海道大学大学院教育学研究院紀要122 (2015) p27-47
<http://hdl.handle.net/2115/59467>

◆ 著作権法について

- 図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン <http://www.library.metro.tokyo.jp/Portals/0/zenkouto/pdf/guideline1309.pdf>
- 日本図書館協会障害者サービス委員会, 著作権委員会編「障害者サービスと著作権法」 日本図書館協会 2014

◆ マラケシュ条約について

- E2041 - マラケシュ条約の締結・著作権法の改正と障害者サービス
<http://current.ndl.go.jp/e2041>

今回の発表に関する論文・サイト

◆ 北海道大学の修学支援関連ページ

- プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス
https://www.lib.hokudai.ac.jp/services/universal_design/digitizing_pa/
- 障がいのある方 https://www.lib.hokudai.ac.jp/services/universal_design/

◆ 学びのユニバーサルデザイン入門

- オープンコースウェア <https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/udl-2015>

◆ 北海道大学の障害のある方への支援

- 教職員対応要領 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/20160401taioyoryo.pdf>
- アクセシビリティ支援室 <https://udl.academic.hokudai.ac.jp/>



今回の発表に関する論文・サイト

◆ 論文

- 事例報告 小林泰名・栗田とも子「プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス」医学図書館 63(1) (2016) p79-84 <http://hdl.handle.net/2115/63161>
- 小林泰名・栗田とも子・河野由香里「特別修学支援室と連携して行う，障害のある学生へのサービス：北海道大学附属図書館の事例」大学図書館研究108 (2018) p1714-1-9 <http://hdl.handle.net/2115/68786>

本日のメニュー

特別修学支援室

特別修学支援室とは

修学支援懇話会

支援室との協働

電子化サービス

配慮提供

支援学生への研修

インターンシップ受け入れ

対応要領策定

特別修学支援室の
支援を受けた
北大図書館の取り組み

貸出に関する合理的配慮

施設・設備の見直し

ウェブサイトでの情報提供

図書館職員の研修

学外との連携・学外発表

これからの目標・課題